



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ウイльта語北方言テキスト : 人喰いお化けの話
Author(s)	山田, 祥子
Citation	北方言語研究, 5, 261-280
Issue Date	2015-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58364
Type	departmental bulletin paper
File Information	15Yamada_shiryo.pdf



[資料・研究ノート]

ウイルタ語北方言テキスト：人喰いお化けの話¹

山 田 祥 子
(北海道立北方民族博物館)

本テキストでは、ウイルタ語北方言の話し手であるイリーナ・フェジャエワさんから筆者が採録した、人喰いお化け(ウイルタ語でdəpčigiri)についての語りを紹介する。

1. ウイルタ語の概要

ウイルタ語は、ロシア・サハリン州の先住少数民族ウイルタ Uilta (уилта) (旧称オロッコ Orok (ороки)) の固有の言語である。ツングース諸語の一つで、そのなかでもナナイ語・ウルチャ語とともに第III群に分類される (Ikegami 1974 [2001: 395])。

ウイルタ語の方言は、ほぼ北緯50度を境として、サハリン北部のワール (Вал) 村を中心とする地方で話される北方言と、中部のポロナイスク (Поронайск) 市 (旧日本領樺太、敷香町) を中心とする地方で話される南方言の二つに分けられる (池上1994 [2001: 247-248])。本テキストは、北方言によるものである。南方言と相違する北方言の特徴にはエウエンキー語 (ツングース諸語第I群) と類似する点があると、池上 (1994 [2001]) により指摘されている。その背景には、19世紀後半以降に大陸からサハリン北部に移住したエウエンキー語の話し手とウイルタ語の話し手がソ連期の生業としてトナカイ飼育を共同して行ったことなどによる文化接触があると考えられる (Yamada 2010: 66-68)。

現在サハリンには300～400人のウイルタが居住するが、日常会話はすべてロシア語で行われる。2014年現在、ウイルタ語を話せる人は二つの方言を合わせても10名に満たず、全員60歳代を超えている。伝統的な言語の消滅が危ぶまれるなか、数人の話し手有志が研究者や博物館、行政府などの協力・支援を得ながらウイルタ語の記録保存や教育に取り組んでいる。本稿で紹介するテキストを語ったフェジャエワさんも、このような話し手の一人である。

2. 本テキストの語り手について

本テキストの語り手であるイリーナ・フェジャエワ (Ирина Яковлевна Федяева) さん (女性) は1940年にワール村で生まれた。幼年期はウイルタである母方の祖母や母とともに、ワール村やトナカイ飼育キャンプ地で生活したという。ウイルタ語北方言とロシア語を話すほか、聞いて理解できる程度のエウエンキー語の知識がある。小学校および幼稚園で教員として働きながら、ウイルタ語の詩や歌などを教えた。『ウイ

¹ 本研究の調査に応じてくださったイリーナ・フェジャエワさん、ならびに本稿の内容について貴重なご指摘をくださった匿名の査読者各位に心より感謝申し上げます。なお、本研究は科学研究費補助金特別研究員奨励費 (課題番号21・2110、2010年度)、独立行政法人日本学術振興会優秀若手研究者海外派遣事業 (2010年度)、科学研究費補助金基盤研究(B) (代表: 津曲敏郎、課題番号22320075、2013年度) の助成を受けて行った。

ルタ語—ロシア語・ロシア語—ウイルト語辞典』(Ozolinja & Fedjaeva 2003) やウイルト語文字教本 (Ikegami et al. 2008) の共編者の一人であり、ごく近年には世界人権宣言ウイルト語訳の作成にも携わった (Bibikova & Fedjaeva trans. 2012)。2014年12月現在、ワール村在住。

3. 採録方法とジャンルについて

本テキストの語りは、2010年11月24日にロシア・サハリン州ワール村のフェジャエワさんの自宅で録音した。内容はフェジャエワさんの母である故O. N. セミョーノワ (Ольга Николаевна Семенова) さんによる語りの再話である。

ウイルトの口承文芸のジャンルには、*təɬluŋu* (実話にもとづく昔話、伝説)、*saxuri* (架空のおとぎ話)、*niŋmaa/ nimŋaa* (語りもの) などがある (池上2002: i)。このジャンル分類によれば、本テキストは語り手がその内容を事実だと言っている (本稿5節(90)) ことから *təɬluŋu* と見なされる。しかし、フェジャエワさんは動詞として *təɬluŋu* から派生する *təɬluŋuči-* を用いる一方で、名詞としてはこの語りを *saxuri* と呼んでいる (本稿5節(1)(3))。語り手のジャンル分類が池上 (2002: i) の記述した伝統的な基準と違ってきている可能性があるため、本テキストの訳では伝統的なジャンル分類によらず、広義に解釈して「お話」と呼んでおく。

語りの中心的な話題である人喰いお化けは、ウイルト語で *dəpčigiri* と呼ばれる。この語は、ウイルト語の「食べる」を表わす動詞 *dəp-* から派生したものと見られ、フェジャエワさんによればロシア語でいうところの *людоед* 「人喰い」だという。なお、もとの語り手であるO. N. セミョーノワさんによるウイルト語北方言の語りと歌謡が池上 (2002: 115-122, 125-127) で紹介されているが、そのなかに *dəpčigiri* についての話はない。

今回の採録で、フェジャエワさんには、読み原稿なしでゆっくりと語っていただいた。その後、録音から筆者が書き起こして作成したテキストをフェジャエワさんに見せながら何度か表記を確認・修正し、逐語的なロシア語訳をつけていった。フェジャエワさんによる最終確認は、2013年9月25日に札幌で行った。

フェジャエワさん自身は「良くは知らない」話だということ (本稿5節(1)~(5)) で、言い誤りや言いよどみのほか、語句や節を途中まで言いかけて止めた部分や、話の内容が一貫しないような部分がある。そのような部分のいくつかは録音後の確認作業でフェジャエワさんが「訂正」されたが、本テキストでは原則として「訂正」を加えずに録音時のままに表記することとする。フェジャエワさんによる「訂正」箇所は脚注に付す。

4. 表記について

本テキストでは、1行目にウイルト語音韻表記、2行目にウイルト語基底形、3行目に英語グロス、4行目に日本語の意識を記す。

1行目および2行目では、池上 (1997: xi-xvi) にもとづき、ローマ字式音韻表記 (母音 /a, ə, o [ɔ], ɐ [o, ɔ], u, i, e/, 子音 /p, b, t, d, č[ʧ], ʃ[ʃ], k, g[ɡ, ɣ~ɣ], m, n, ŋ, l, r, s, x, w, j/)

によってウイльта語を表記する。ロシア語が挿入された場合、ロシア語をキリル文字からローマ字に転写して、1行目ではイタリックで、2行目では[]に入れて表示する（借用語はその限りではない）。また、ウイльта語で発音上語末のiが脱落したり（本稿5節(3) *ər < əri*など）、短母音が長く発音されたり（本稿5節(14) *dapagaaččeeri < dapagaččeeri*など）することがあるが、この場合1行目では発音上の音形を示すこととする。2行目で接尾辞や語尾の基底形を表わす際は、母音調和により交替する母音をAで表わす。

そのほか、文法注記に用いる略号は下記のとおりである。

略号一覧

-: 形態素境界 / +: 融合 / #: 言い誤り、言いよどみ / ?: 分析不確定 / 1: 一人称 / 2: 二人称 / 3: 三人称 / ABL: 奪格 / ACC: 対格 / AL: 譲渡可能 / C: 副動詞 / COM: 共同格 / COND: 条件 / COOR: 同時 / COP: コピュラ動詞語幹 / DAT: 与格 / DIR: 方向格 / DIT: 方向・目的「～しに行く」 / DSG: 指定格 / DUR: 継続 / EMPH: 強調 / EVD: 証拠性（直接体験） / EXC: 感嘆 / F: 定動詞 / FIL: フィラー / HS: 伝聞 / IM: 不完了 / IMP: 命令 / IPSN: 非人称 / INCH: 開始「～し始める」 / INS: 道具格 / INT: 意志 / INTJ: 間投詞 / ITR: 反復 / LIKE: 類似「～のような」 / LMT: 限定「～だけ」 / NEG: 否定動詞語幹 / NFUT: 近未来 / NIM: 否定にともなう不完了形動詞語尾 / NOM: 主格 / P: 形動詞（動名詞） / PERS: 名詞派生接尾辞「～（する）人」 / PL: 複数 / POSS: 所有「～とともに」 / PRF: 完了 / PRL: 沿格 / PST: 過去 / PTCL: 付属語または小詞 / PURP: 目的 / REF: 再帰所有 / REV: 回帰 / SG: 単数 / TILL: 限界「～まで」 / TOP: 主題化 / TR: 他動詞化 / WHQ: 疑問詞疑問 / YNQ: 肯否疑問

全体として、表記・分析には語り手本人への聞き取りのほか、Ikegami (1959[2001], 1973[2001]), Petrova (1967), 潤潟 (1981), 池上 (1997), Tsumagari (2009), Ozolinja (2001), Ozolinja & Fedjaeva (2003), Ozolinja (2013) を参考にした。

5. ウイльта語北方言テキスト：人喰いお化けの話

あらすじ

ある男が子どもを連れて狩りに出かけた。獲物がないまま日が暮れたので焚き火を焚いて野宿していると、夜中に、焚き火から子どもの姿をした人喰いお化けが出てきた。人喰いお化けは、朝起きたら何もしゃべってはいけない、さもないと我が子の命はないと男に告げた。朝になって、男は夢の中でお化けを見たのだと思って警告されたことを忘れ、子どもと言葉を交わした。家に帰って妻とも話した。その後しばらくして、子どもは突然重い病気にかかって、ついには死んでしまった。男が警告を聞かなかったので、人喰いお化けが子どもを連れていったのだ。

(1)

bii	əsiwi	saara,	a	ənimbi
bii	ə-si-bi	saa-rA	[a]	əni(n)-bi
1SG.NOM	NEG-IM.P-1SG	know-NIM	and	mother-1SG

təəlunučixəni, **əə** **geeda** **saxurree.**
təəlunuči-xA(n)-ni əə geeda saxuri+bA
narrate-PRF.P-3SG INTJ one story+ACC
私は知らないんだけど、お母さんが語ったのよ、お話を一つ。

(2)

əə	ulingaʃi	əsiwi	saara.
əə	ulinga-ʃi	ə-si-bi	saa-rA
INTJ	good-INS	NEG-IM.P-1SG	know-NIM

良くは知らないの。

(3)

mozhet	xaiwaddaa	doonduliwi,	ər
[mozhet]	xai-bA=ddAA	doon-du-li-wi	əri
may.be	what-ACC=EMPH	remember-REV-FUT.P-1SG	this

təəlunučimi.
təəlunuči-mi
narrate-COOR.C
もしかしたら、何か思い出せるかもしれない、語りながら。

(4)

togda	xurumuukə	billini	saxuri.
[togda]	xurumuukə	bi+li-ni	saxuri
then	short	COP+FUT.P-3SG	story

だから、短いお話になりそうよ。

(5)

nučiikə,	ii?
nučiikə	ii
small	yes

小さなお話、いいわね？

(6)

geeda	nari	puttəmunə	bəiŋəəndəxəči	purəttəi.
geeda	nari	puttə-munA	bəiŋəə-ndA-xA(n)-či	purə(n)-tAi
one	person	child-POSS	hunt-DIT-PRF.P-3PL	forest-DIR

ある男が子どもを連れてやまへ狩りにでかけました。

(7)

səksədələə	čii	puličiči	ulaaʃi.
səksə-dAlAA	čii	puli-či(n)-či	ulaa-ʃi
evening-TILL	long.time	walk-PRF.P-3PL	reindeer-INS

晩までずっと家畜トナカイに乗って行きました。

(8)

xaiwaddaa	əččiči	waara.
xai-bA=ddAA	ə+či(n)-či	waa-rA
what-ACC=EMPH	NEG+PRF.P-3PL	kill-NIM

何も獲れませんでした。

(9)

dolbojžini,	unžini	amini	puttətəkki.
dolbo-du+ri-ni	un-ri-ni	ami-ni	puttə-tAkki
night-REV+IM.P-3SG	say-IM.P-3SG	father-3SG	child-REF.DIR

「夜が更けるな」と、父が子どもに言いました。

(10)

jədu	aundačigattali,
jədu	aundači-ŋAttAli
this.DAT	stay-IMP.1PL? ²

「ここで野宿することにしよう。

(11)

duwaači,	xai	suŋunžiləpu.
duwa+kAAči	xai	suŋun-rilA-pu
summer+EXC	what	freeze-NFUT.F-1PL

夏だものな、なにを凍えることがあろう。

(12)

ipkəə	iwakkaččeeri	namauli	biilləə
ipkə+bA	iwan-kAččeeri	namauli	bi+rillAA
bonfire+ACC	make.a.fire-PRF.PL.C	warm	COP+NFUT.F.3

muttəi.
muttəi
1PL.DIR
火を焚けば、我々はあたたかくなるだろう」

(13)

tari	ipkəə	iwaččiči.
tari	ipkə+bA	iwan-či(n)-či
that	bonfire+ACC	make.a.fire-PRF.P-3PL

その人は火を焚きました。

(14)

sundattaa	dapagaaččeeri,	siločigaaččeeri,
sundatta+bA	dapa-kAččeeri	siloči-kAččeeri
fish+ACC	catch-PRF.PL.C	roast.on.skewers-PRF.PL.C

² Ikegami (1959[2001: 37]) によれば -ŋAttAli は、話し手が聞き手をとおして第三者（複数）に指示を与える、三人称命令の形式と分析される。だが、現在の北方言においては同じ形式で三人称に対する意味が確認されず、むしろ話し手と聞き手を含む一人称複数がこれから行おうとする行為を表わす場合に用いられる。ここでは暫定的にグロスを一人称命令（複数）としておく。

səksəduxənduni	dəptugəəččeeri, čaiwa	umigəəččeeri,
səksə-du-xA(n)-du-ni	dəp+kAččeeri	umi-kAččeeri
evening-REV-PRF.P-DAT-3SG	eat+PRF.PL.C	drink-PRF.PL.C

apkaččiči.

apkan-či(n)-či

lie.down-PRF.P-3PL

魚をとって串焼きにして、日が暮れた頃に、食事をしてお茶を飲んでから寝ました。

(15)

amini	unʃini,	duluu	əččeeli	apkandoora	apkandoori
ami-ni	un-ri-ni	duluu	əččeeli	#	apkan-?
father-3SG	say-IM.P-3SG	before	not.yet	#	lie.down-?
ipkəəri	ulingaʃi	iwanʃisu.			
ipkə+bAri	ulinga-ʃi	iwan-ri-su			
bonfire+REF.PL	good-INS	make.a.fire-IM.P-2PL			

「寝てしまわないうちに火を良く焚いておこう」と父は言います。

(16)

ipkətəkkeeri	təjəxoči	bičči.
ipkə-tAkkeeri	təjə-xA(n)-či	bi+či(n)
bonfire-REF.DIR.PL	entertain-PRF.P-3PL	COP+PRF.P

焚き火に供え物はしてありました。

(17)

əččiči	omgoo	čawalaka.
ə+či(n)-či	omgo+rA	čawa=lAkA
NEG+PRF.P-3PL	forget+NIM	that.ACC=TOP

これは忘れませんでした。

(18)

čoočči	čaičigaaččeer	dəptugəəččeeri	əməri
čoočči	čai-či-kAččeeri	dəp+kAččeeri	ə-mAri
after.that	drink.tea-ITR-PRF.PL.C	eat+PRF.PL.C	NEG-COOR.PL.C

apkanda,	puttəni	noon	dapkak³	...
apkan-rA	puttə-ni	nooni	dapka-kkee-ni	
lie.down-NIM	child-3SG	3SG.NOM	border-PRL-3SG	

puttəni	xaalanda	uzhe	apkaččini	bičči.
puttə-ni	xaalanda	[uzhe]	apkan-či(n)-ni	bi+či(n)
child-3SG	long.time.ago	already	lie.down-PRF.P-3SG	COP+PRF.P

そして飲んで食べてから、まだ眠らずにいと、子どもは彼のそばでいつのまにか眠っていました。

³ 採録時にはこの語の末尾が発音されなかったが、フェジャエワさんによるとdapkakkeeniとあるのがいい。

(19)

a	məənə	mapa	əwəsəi	tawasai	puliktəxəni,	
[a]	məənə	mapa	əwəsəi	tawasai	puli-ktA-xA(n)-ni	
and	REF.NOM	old.man	this.way	that.way	walk-ITR-PRF.P-3SG	
ulaalbi		itəndəitəxəni,		moowa	gaduxani,	
ulaa-l-bi		itə-ndA+kitA-xA(n)-ni		moo-bA	gadu-xA(n)-ni	
reindeer-PL-REF		see-DIT+INT-PRF.P-3SG		bar-ACC	bring-PRF.P-3SG	
ipkəə	ipkəəri	ipkəji	ipkəči	əbuddooni	əə	... potuxla ...
#	#	#	ipkə-či	ə-buddoo-ni	əə	[potuxla]
#	#	#	bonfire-3PL	NEG-PURP-3SG	INTJ	extinguished

guuptə.

guup+rA

extinguish+NIM

男はあちこち歩きまわったり、自分の家畜トナカイを見に行ってきたり、薪を運んだりして、焚き火が消えないようにしていました。

(20)

ipkəči	əbuddooni	guuptə.
ipkə-či	ə-buddoo-ni	guup+rA
bonfire-3PL	NEG-PURP-3SG	extinguish+NIM

焚き火が消えないように。⁴

(21)

čoočči	məətəlxəni	jiŋ	moomi	moowa,	i
čoočči	məətəlxə-xA(n)-ni	jiŋ	moomi	moo-bA	[i]
after.that	throw-PRF.P-3SG	very	thick	firewood-ACC	and
apkaččini	boita	təkkəkkeeni.			
apkan-či(n)-ni	boita	təkkə-kkee-ni			
lie.down-PRF.P-3SG	creeping.pine	root-PRL-3SG			

そして太い薪を投げ入れて、ハイマツの根元で寝ました。

(22)

puttəni	bakka	goi	boita	dapk	...	tup	...
puttə-ni	bakka	goi	boita	#		#	
child-3SG	also	another	creeping.pine	#		#	

apkaččini.⁵

apkan-či(n)-ni

lie.down-PRF.P-3SG

その子どもも別のハイマツの根元で眠っていました。

⁴ (19)でguup-の語がすぐに思い出せずロシア語で言ってしまったため、(20)で言い直した。

⁵ フェジャエワさんによると、言いよどんだ部分にtəkkəkkeeni (təkkə-kkee-ni ; root-PRL-3SG) 「その根元で」を補足するべきだという。訳文にはその意味を補った。

(23)

a	nooni	məənə	goikki	aurini.
[a]	nooni	məənə	goi-kki	au-ri-ni
and	3SG.NOM	REF.NOM	another-PRL	sleep-IM.P-3SG

男は反対側で眠っています。

(24)

ipkəŋuči	əmbee	əə	dəgdəxəni,	čipaal	anu,
ipkə-ŋu-či	əmbee	əə	dəgdə-xA(n)-ni	čipaali	anu
bonfire-AL-3PL	of.course	INTJ	burn-PRF.P-3SG	altogether	FIL
mooŋuči	seeltamali	oččini		ipkəduči.	
moo-ŋu-či	seelta=mAli	o+či(n)-ni		ipkə-du-či	
bar-AL-3PL	charcoal=LMT	become+PRF.P-3SG		bonfire-DAT-3PL	

焚き火はもちろん燃え尽きて、薪はまったく炭ばかりになってしまいました。

(25)

seeltani	ogočči	ipkəduu	anu	nəəxəni,
seelta-ni	o-kAčči	ipkə-duu	anu	nəə-xA(n)-ni
charcoal-3SG	become-PRF.C	bonfire-ABL	FIL	go.out-PRF.P-3SG
puttəŋəči	nari	nəəxəni.		
puttə-ŋAči	nari	nəə-xA(n)-ni		
child-LIKE	person	go.out-PRF.P-3SG		

炭になってしまって、焚き火からそのあれが出てきました、子どものような姿をした人が出てきました。

(26)

mapa	meelčini.
mapa	meel-či(n)-ni
old.man	wake.up-PRF.P-3SG

男は目を覚ましました。

(27)

tar	puttə	nooni	puttəəni	urəxə.
tari	puttə	nooni	puttə+bA-ni	urə-xA(n)
that	child	3SG.NOM	child+ACC-3SG	get.resemble-PRF.P

その子どもは、彼の子どもに似ていました。

(28)

ii.⁶

ii

yes

そうなの。

⁶ 聞き手である筆者が内容の恐ろしさにぞっとして反応したのを見て、フェジャエワさんが念押しした。

(29)

čoočči tar mapa unjini.
 čoočči tari mapa un-ri-ni
 after.that that old.man say-IM.P-3SG
 すると男が言います。⁷

(30)

itəxəni goi boitatai, puttəni aurini.
 itə-xA(n)-ni goi boita-tAi puttə-ni au-ri-ni
 see-PRF.P-3SG another creeping.pine-DIR child-3SG sleep-IM.P-3SG
 反対側のわきで子どもが寝ているのを見ました。

(31)

a jədu ilisini, noomboni ataptai
 [a] jədu ili-si-ni noomboni ataptai
 and this.DAT be.standing-IM.P-3SG 3SG.ACC opposite
ilisini goi puttə.
 ili-si-ni goi puttə.
 be.standing-IM.P-3SG another child
 ここに、つまり自分の子どもと反対側に別の子どもが立っているのです。

(32)

tamačaa zhe puttə, noon puttəni urəxə.
 tamačaa [zhe] puttə nooni puttə+bA-ni urə-xA(n)
 like.that PTCL child 3SG.NOM child+ACC-3SG get.resemble-PRF.P
 そっくりの子ども、彼の子どもにそっくりでした。

(33)

unjini⁸, sii xamaččuu sindaxasee?
 un-ri-ni sii xamaččuu sinda-xA(n)-si+kA
 say-IM.P-3SG 2SG.NOM from.where come-PRF.P-2SG+WHQ
 男は言います、「おまえはどこから来たんだ？」

(34)

sii ŋuiḡ?
 sii ŋui=kA
 2SG.NOM who=WHQ
 おまえは何者だ？」と。

(35)

tar puttə unjini, bii ipkəduu nəəxəmbi.
 tari puttə un-ri-ni bii ipkə-duu nəə-xA(n)-bi
 that child say-IM.P-3SG 1SG.NOM bonfire-ABL go.out-PRF.P-1SG
 その子どもは言います、「私は焚き火から出てきた。」

⁷ せりふが続くようだがこの後に地の文が挿入された。せりふは(33)にある。

⁸ フェジャエワさんによると unjini「言う」のかわりに、panusini「尋ねる」とあるのがいい。

(36)

bii	ipkə	puttəni.
bii	ipkə	puttə-ni
1SG.NOM	bonfire	child-3SG

私は焚き火の子だ」と。

(37)

i	bii	čaa	tamačaa	ambaa	əččimbi
[i]	bii	čaa	tamačaa	amba+bA	ə+či(n)-bi
and	1SG.NOM	that	like.that	devil+ACC	NEG+PRF.P-1SG

saara, **mapa** **unĵini.**
saa-rA mapa un-ri-ni
know-NIM old.man say-IM.P-3SG

「こんなお化けは知らなかったぞ」と、男が言います。

(38)

chto	ipkəduu	narisal	nəəriči.
[chto]	ipkə-duu	nari-sAl	nəə-ri-či
that	bonfire-ABL	person-PL	go.out-IM.P-3PL

「焚き火から人が出てくるなんて」

(39)

bii	nari	əsi	bee.
bii	nari	ə-si	bi+rA
1SG.NOM	person	NEG-IM.P	COP+NIM

(その子どもが) 「私は人ではない。

(40)

bii	dəpčigiri.
bii	dəpčigiri
1SG.NOM	ogre

私は人喰いだ」 (と言います。)

(41)

čoočči	unĵini,	čimai	təəgəčči	esli	sii
čoočči	un-ri-ni	čimai	təə-kAčči	[esli]	sii
after.that	say-IM.P-3SG	morning	sit-PRF.C	if	2SG.NOM

ananasisi **puttəbi** **ujuu** **bibuddooni,**
anana-si-si puttə-bi ujuu bi-buddoo-ni
wish.for-IM.P-2SG child-REF alive COP-PURP-3SG

čimai	təəgəčči	xaiwaddaa	əĵĵee
čimai	təə-kAčči	xai-bA=ddAA	əĵĵee
morning	sit-PRF.C	what-ACC=EMPH	NEG.IMP

təəluŋuččee.
təəluŋuči+rA
narrate+NIM

そして言います、「朝起きて、もしおまえが自分の子どもを生かしておきたいなら、

朝起きてから何も話すな。

(42)

puttəsi	bu	təluŋuči,	təluŋučuutəssee,	puttəsi
puttə-si	#	#	təluŋuči+kutA-ssee	puttə-si
child-2SG	#	#	narrate+PRF.COND.C-2SG	child-2SG

buʃillə.

bul+rillAA

die+NFUT.F.3

おまえの子どもは、もし話してしまったら、おまえの子どもは死ぬだろう」

(43)

mapa	bolgoxoni,	təxəni.
mapa	bolgo-xA(n)-ni	təxə-xA(n)-ni
old.man	be.frightened-PRF.P-3SG	sit-PRF.P-3SG

男は恐ろしくなって、起き上がりました。

(44)

təxəni,	tawani,	seelta	esshjo	dəgʃeeni	xaiddaa
təxə-xA(n)-ni	tawa-ni	seelta	[esshjo]	dəgdə-ri-ni	xai=ddAA
sit-PRF.P-3SG	fire-3SG	charcoal	yet	burn-IM.P-3SG	what=EMPH

puttəni **anaa.**

puttə-ni anaa

child-3SG no

起き上がりましたが、火は、炭がまだ燃えていて、子どもなどいません。

(45)

tari	tolčičixani	tar	mapa.
tari	tolčiči-xA(n)-ni	tari	mapa
that	dream-PRF.P-3SG	that	old.man

彼は夢を見ていたのです、その男は。

(46)

əččini	meelda	bičči.
ə+či(n)-ni	meel-rA	bi+či(n)
NEG+PRF.P-3SG	wake.up-NIM	COP+PRF.P

まだ目覚めていなかったのです。

(47)

nooni	mərəčixəni,	čto	nooni	meelčini.
nooni	mərəči-xA(n)-ni	[čto]	nooni	meel-či(n)-ni
3SG.NOM	think-PRF.P-3SG	that	3SG.NOM	wake.up-PRF.P-3SG

彼は（自分が）目覚めていたと思っていました。

(48)

a	məənə	auxani,	i	čar	tari
[a]	məənə	au-xA(n)-ni	[i]	#	tari
but	REF.NOM	sleep-PRF.P-3SG	and	#	that

puttəndoo **ləədəčči.**
 puttə-ndoo ləədən-či(n)-či
 child-COM speak-PRF.P-3PL
 でも眠っていて、（夢のなかで）その子どもと話をしたのでした。

(49)

čoočči	puttəb	baaruni	itəgəčči,	puttəni
čoočči	puttə-bi	baaru-ni	itə-kAčči	puttə-ni
after.that	child-REF	toward-3SG	see-PRF.C	child-3SG

aurini.
 au-ri-ni
 sleep-IM.P-3SG
 子どもの方を見ると、子どもは眠っています。

(50)

tar	mapa	iligaáčči	tawabi	iwaččini
tari	mapa	ili-kAčči	tawa-bi	iwan-či(n)-ni
that	old.man	stand.up-PRF.C	fire-REF	make.fire-PRF.P-3SG

ipkəbi.
 ipkə-bi
 bonfire-REF
 男は起き上がって、焚き火を焚きました。

(51)

muulətəxəni.
 muulətə-xA(n)-ni
 go.to.get.water.and.come.back-PRF.P-3SG
 水を汲みに行って来ました。

(52)

čaiwa	təəwuxəni	dosoboodu.
čai-bA	təə-bu-xA(n)-ni	dosoboo-du
tea-ACC	sit-TR-PRF.P-3SG	crosspiece.over.bonfire-DAT

茶を焚き火の上にわたした棒にかけまし（て沸かしまし）た。

(53)

a	sundattaa	siloxoni.
[a]	sundatta+bA	silo-xA(n)-ni
and	fish+ACC	roast.on.skewers-PRF.P-3SG

そして魚を串焼きにしました。

(54)

čoočči	puttəni	meelčini.
čoočči	puttə-ni	meel-či(n)-ni
after.that	child-3SG	wake.up-PRF.P-3SG

すると、子どもが目を覚めました。

(55)

ammaa,	sii	xai	əččisi	aurai?
amma+kAA	sii	xai	ə+či(n)-si	au-rA=i
father+EXC	2SG.NOM	what	NEG+PRF.P-2SG	sleep-NIM=YNQ ⁹

「お父さん、なに、寝なかったの？」（と子どもが尋ねました。）

(56)

auxambi,	unĵini.
au-xA(n)-bi	un-ri-ni
sleep-PRF.P-1SG	say-IM.P-3SG

「寝たよ」と（男は）言いました。

(57)

čoočči	omgoxoni	tar	mapa,	tar	puttə
čoočči	omgo-xA(n)-ni	tari	mapa	tari	puttə
after.that	forget-PRF.P-3SG	that	old.man	that	child

uččini	əbuddooni	ləədəndə.
un-či(n)-ni	ə-buddoo-ni	ləədən-rA
say-PRF.P-3SG	NEG-PURP-3SG	speak-NIM

彼は忘れてしまいました、あの子どもがしゃべってはいけなかったと言ったことを。

(58)

a	nooni	ləədənĵini	puttəmunə.
[a]	nooni	ləədən-ri-ni	puttə-munA
and	3SG.NOM	speak-IM.P-3SG	child-POSS

それで、彼は子どもと話しました。

(59)

čoočči	doonduxani,	a	uzhe	xamasai
čoočči	doon-du-xA(n)-ni	[a]	[uzhe]	xamasai
after.that	remember-REV-PRF.P-3SG	but	already	back

čaa	kəsəbi	əŋəsi	dappaa	dootakki.
čaa	kəsə-bi	ə-ŋA-si	dapa+rA	doo-tAkki
that	language-REF	NEG-FUT.F-2SG	catch+NIM	inside-REF.DIR

その後になって思い出しましたが、その（もう話してしまった）ことばを胸の中にしまふことなどできません。

(60)

mərəččini,	anaa,	dukutakki	ŋənumi	naada.
mərəči-ri-ni	anaa	duku-tAkki	ŋənu-mi	naada
think-IM.P-3SG	no	house-REF.DIR	return-COOR.C	necessary

「いや、家に帰らない」と思います。

⁹ この文には疑問詞xai「何」が含まれるが、文末に肯否疑問の倚辞=iがついて肯否疑問文となっている。

(61)

dəptugəččeeri	ḡəṇəxəči,	bəiḡəəndəxəči.
dəp+kAččeeri	ḡəṇə-xA(n)-či	bəiḡəə-ndA-xA(n)-či
eat+PRF.PL.C	go-PRF.P-3PL	hunt-DIT-PRF.P-3PL

食べてから、狩りに行きました。

(62)

bəi	oo	geeda	sirəmbə	itəḡəččeeri	waaxəči.
#	oo	geeda	sirə(n)-bA	itə-kAččeeri	waa-xA(n)-či
#	INTJ	one	wild.reindeer-ACC	see-PRF.PL.C	kill-PRF.P-3PL

野生トナカイを一頭獲りました。

(63)

waagaaččeeri	ulissəni	čipaal	nambax	nambaxəči
waa-kAččeeri	ulisə+bA-ni	čipaali	#	namba-xA(n)-či
kill-PRF.PL.C	meat+ACC-3SG	altogether	#	load.up-PRF.P-3PL
ulaaltakkeeri	dukuḡḡoor	baaruni	ḡəṇəxəči.	
ulaa-l-tAkkeeri	duku-ḡu+bAri	baaru-ni	ḡəṇə-xA(n)-či	
reindeer-PL-REF.DIR.PL	house-AL+REF.PL	toward-3SG	go-PRF.P-3PL	

獲ってから、その肉をすべて家畜トナカイの荷駄に積んで、家路につきました。

(64)

čoočči	ḡəṇəḡəččeeri,	isugaaččeeri	dukutakkeeri
čoočči	ḡəṇə-kAččeeri	isu-kAččeeri	duku-tAkkeeri
after.that	go-PRF.PL.C	come.back-PRF.PL.C	house-REF.DIR.PL
isugaaččeeri	gasattakkeeri	isugaaččeeri,	mapa
isu-kAččeeri	gasa-tAkkeeri	isu-kAččeeri	mapa
come.back-PRF.PL.C	village-REF.DIR.PL	come.back-PRF.PL.C	old.man
mamaḡuni	unḡini,	orooi	ḡiḡ
mama-ḡu-ni	un-ri-ni	orooi	ḡiḡ
old.woman-AL-3SG	say-IM.P-3SG	INTJ	very
			quick

isuxasooči.

isu-xA(n)-su+kAAči

come.back-PRF.P-2PL+EXC

そして進んで行って、家の方へ、村の方へ帰って行くと、男の妻が言います、「あらまあ、とてもはやく帰ってきたのね！

(65)

čeennee	isuluxasu	bitəəči.
čeennee	isu-lu-xA(n)-su	bi-tAA+kAAči
yesterday	come.back-INCH-PRF.P-2PL	COP-EVD.PST.F.3+EXC

(でも、) 昨日帰って来るはずだったでしょう。

(66)

xaimi	əččiisu	issoo	čeennee?
xai-mi	ə+či(n)-su	isu+rA	čeennee
what-COOR.C	NEG+PRF.P-2PL	come.back+NIM	yesterday

どうして昨日は帰らなかったの？」

(67)

čeennee	əččipu	waara	bičči	ulaaba.
čeennee	ə+či(n)-pu	waa-rA	bi+či(n)	ulaa-bA
yesterday	NEG+PRF.P-1PL	kill-NIM	COP+PRF.P	reindeer-ACC

「昨日は家畜トナカイを殺さなかったんだ。」

(68)

əsinəŋiməli	sirəmbə	waaxapu.
əsinəŋi=mAli	sirə(n)-bA	waa-xA(n)-pu
today=LMT	wild.reindeer-ACC	kill-PRF.P-1PL

今日やっと、野生トナカイが獲れた」 (と男は答えました。)

(69)

əə,	anniddaa	omgoxombi,	unjini.
əə	anniddaa	omgo-xA(n)-bi	un-ri-ni
INTJ	again	forget-PRF.P-1SG	say-IM.P-3SG

「また忘れた」と (男が) 言います。

(70)

tari	puttə	uččimbəni,	əə,	əbuddooowwee	ləədəndə.
tari	puttə	un-či(n)-bA-ni	əə	ə-buddoo-wwee	ləədən-rA
that	child	say-PRF.P-ACC-3SG	INTJ	NEG-PURP-1SG	speak-NIM

「あの子どもが言ったのを、私に口をきくなど」

(71)

xooni	biwwurigəndə	xooni	xəməə	billisee
xooni	bi+buri=kA=ndA	xooni	xəməə	bi+li-si+kA
how	COP+IPSN.IM.P=WHQ=HS	how	silent	COP+FUT.P-2SG+WHQ

əm	ləədəndə?
ə-mi	ləədən-rA
NEG-COOR.C	speak-NIM

どうして生きていられるというんでしょう、どうやって口をきかずに生きていくというんでしょう？

(72)

ləədənŋi	nari	ləədənŋini	əmbee.
ləədən-ri	nari	ləədən-ri-ni	əmbee
speak-IM.P	person	speak-IM.P-3SG	of.course

話せる人は話して当然ですから。

(73)

čoočči	čiptam	oččini.
čoočči	čiptam	o+či(n)-ni
after.that	silent	become+PRF.P-3SG

そうして (男は) 黙ってしまいました。

(74)

čipaalinneetai	gasal ¹⁰	ĵeesiltakki	borixani
čipaali-nnee-tAi	gasa-l	ĵeesil-tAkki	bori-xA(n)-ni
all-PERS-DIR	village-PL	partners-REF.DIR	distribute-PRF.P-3SG
čaa	ulissəə,	sirə	ulissəəni.
čaa	ulisə+bA	sirə	ulisə+bA-ni
that	meat+ACC	wild.reindeer	meat+ACC-3SG

村中の人びとにその肉を、野生トナカイの肉を分配しました。

(75)

əə,	tari	biluxəči	biiči.
əə	tari	bi-lu-xA(n)-či	bi+ri-či
INTJ	that	COP-INCH-PRF.P-3PL	COP+IM.P-3PL

そうして男は暮らすようになります。

(76)

dəpčiči	ulissəə,	ləpeesəə	ləpeeskeeči.
dəp+ri-či	ulisə+bA	ləpeesəə+bA	ləpeesəə+ri-či
eat+IM.P-3PL	meat+ACC	flat.cake+ACC	bake.flat.cake+IM.P-3PL

肉を食べて、レピョーシュカ（小麦粉の平たいパン）を焼きます。

(79)

geedara	puttəni	ənuluxəni.
geedara	puttə-ni	ənu-lu-xA(n)-ni
once	child-3SG	pain-INCH-PRF.P-3SG

あるとき、その子どもが病気になりました。

(80)

tari	mapa	xaiwaddaa	əsini	saara,
tari	mapa	xai-bA=ddAA	ə-si-ni	saa-rA
that	old.man	what-ACC=EMPH	NEG-IM.P-3SG	know-NIM
xaimi	ənuluxənee.			
xai-mi	ənu-lu-xA(n)-ni+kA			
what-COOR.C	pain-INCH-PRF.P-3SG+WHQ			

その男は何もわかりません、どうして病気になったのか。

(81)

puligəəčči	puligəəčči	ənuluxəni.
puli-kAčči	puli-kAčči	ənu-lu-xA(n)-ni
walk-PRF.PL.C	walk-PRF.PL.C	pain-INCH-PRF.P-3SG

（元気に）歩いていたのに、病気になってしまいました。

(82)

bəgĵiniddə	əsini	pulisi,	xainidda
bəgĵi-ni=ddAA	ə-si-ni	puli-si	xai-ni=ddAA
leg-3SG=EMPH	NEG-IM.P-3SG	walk-NIM	what-3SG=EMPH

¹⁰ フェジャエワさんによると gasal ĵeesiltakki 「村々の人びとに」のかわりに、gasanneetakki 「村人たちに」とあるのがいい。

əsini.

ə-si-ni

NEG-IM.P-3SG

その足も動かず、どこも動きません。

(83)

čipaali

čipaali

altogether

すっかり病んでしまいました。

ənuluxəni.

ənu-lu-xA(n)-ni

pain-INCH-PRF.P-3SG

(84)

xoonika

xooni=kA

how=WHQ

なんとか生きながらえています。

biini.

bi+ri-ni

COP+IM.P-3SG

(85)

tari

tari

that

mapa

mapa

old.man

unʃini

un-ri-ni

say-IM.P-3SG

məttəkki,

məttəkki

REF.DIR

mərən

mərən-ni

mind-3SG

dootokki¹¹

doo-tAkki

inside-REF.DIR

unʃini,

un-ri-ni

say-IM.P-3SG

mərəččini.

mərəči+ri-ni

think+IM.P-3SG

その男は自分に、自分の心の中に言います、思います。

(84)

tari

tari

that

bii

bii

1SG.NOM

baitabi.

baita-bi

fault-1SG

「これは私のせいだ。

(85)

bii

bii

1SG.NOM

ča

čaa

that

puttə

puttə

child

...

puttəjji

puttə-jji

child-REF.DAT

gəsə

gəsə

together

ipkə

ipkə

bonfire

dapkaduni

dapka-du-ni

border-DAT-3SG speak-PRF.P-1SG

私は、あの子ども…、自分の子どもと焚き火のそばで話してしまった。

lədəččimbi.

lədən-či(n)-bi

(86)

isugaačči

isu-kAčči

come.back-PRF.C

mamaŋuʃji

mama-ŋu-ʃji

old.woman-AL-REF.DAT

lədəččimbi.

lədən-či(n)-bi

speak-PRF.P-1SG

帰って来てから、妻と話してしまった」

¹¹ フェジャエワさんによると mərən dootokki 「その心の中に向かって」のかわりに、mərən dooduni 「その心の中で」とあるのがいい。

(87)

tari	ənumʃee,	ənumʃee	tar	puttə	čii
tari	ənu-mʃee	ənu-mʃee	tari	puttə	čii
that	pain-DUR.C	pain-DUR.C	that	child	long.time

buččini.

bul+či(n)-ni

die+PRF.P-3SG

ずっと病気で苦しんで苦しんで、その子どもは死んでしまいました。

(88)

xooni	xurree	xurreeləsi	čaa	puttə	ənuluxəmbə.
xooni	#	xura+riIA-si	čaa	puttə	ənu-lu-xA(n)-bA
how	#	save+NFUT.F-2SG	that	child	pain-INCH-PRF.P-ACC

どうやって救うことができるでしょう、子どもが病気になってしまったのを。

(89)

tari **buččini.**

tari bul+či(n)-ni

that die+PRF.P-3SG

死んでしまいました。

(90)

tari **təddəə.**

tari tədə+kAA

that true+EXC

これは事実です。

(91)

tari	dəpčigiri	məəttəkki	gaččini.
tari	dəpčigiri	məəttəkki	ga+či(n)-ni
that	ogre	REF.DIR	take+PRF.P-3SG

あの人喰いお化けが（子どもを）連れていったのです。

(92)

taraŋači	ənimbi	təəluŋuči-xəni.
taraŋači	əni(n)-bi	təəluŋuči-xA(n)-ni
like.that	mother-1SG	narrate-PRF.P-3SG

このように、私のお母さんは語りました。

(93)

ələ.

ələ

enough

おしまい。

参考文献

- 池上二良1994「ウイльта語の南方言と北方言の相違点」『北海道立北方民族博物館研究紀要』3: 9-38 [2001『ツングース語研究』: 247-283, 汲古書院] .
- 池上二良1997『ウイльта語辞典』北海道大学図書刊行会.
- 池上二良2002『増訂ウイльта口頭文芸原文集』（ツングース言語文化論集16）大阪学院大学.
- 潤潟久治（編）1981『ウイльта語辞典』網走市北方民俗文化保存協会.
- Bibikova, E. A. & I. Ja. Fedjaeva 2012 *Vseobsshaja deklaratsija prav cheloveka na uil'tinskom jazyke*. Juzhno-Saxalinsk.
- Ikegami, J. 1959 “The verb inflection of Orok”. 『国語研究』9: 34-73, 国学院大学国語研究会 [2001『ツングース語研究』: 24-66, 汲古書院] .
- Ikegami, J. 1973 “Orok Verb-Stem-Formative Suffixes”. 『北方文化研究』7: 1-17, 北海道大学北方文化研究施設 [2001『ツングース語研究』: 66-72, 汲古書院] .
- Ikegami, J. 1974 “Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprachen”. *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent International Altaistic Conference 1969 in Berlin.* : 271-272. Berlin: Akademie-Verlag [2001『ツングース語研究』: 395-396, 汲古書院] .
- Ikegami, J., E. A. Bibikova, L. R. Kitazima, S. Minato, T. P. Roon, & I. Ja. Fedjaeva 2008 *Uiltadairisu: Govorim po-uil'tinski*. Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskoe knizhnoe izdatel'stvo.
- Ozolinja, L. V. 2001 *Oroksko-russkii slovar': okolo 12000 slov*. Novosibirsk: Izdatel'stvo SO RAN.
- Ozolinja, L. V. 2013 *Grammatika oroksokogo jazyka*. Novosibirsk: Akademicheskoe izdatel'stvo “Geo”.
- Ozolinja, L. V. & I. Ja. Fedjaeva 2003 *Oroksko-russkii i russko-orokskii slovar'*. Juzhno-Saxalinsk: Saxalinskoe knizhnoe izdatel'stvo.
- Petrova, T. I. 1967 *Jazyk Orokov (Ul'ta)*. Leningrad: Izdatel'stvo ”Nauka”.
- Tsumagari, T. 2009 “Grammatical outline of Uilta (Revised)”. In *Journal of the Graduate School of Letters*, 4: 1-21. Sapporo: Graduate School of Letters, Hokkaido University.
- Yamada, Y. 2010 “A preliminary study of language contacts around Uilta on Sakhalin”. In *Journal of the Center for Northern Humanities*, 3: 59-75. Sapporo: Graduate School of Letters, Hokkaido University.

An Uilta Text in Northern Dialect: a Story about Ogre

Yoshiko YAMADA
(Hokkaido Museum of Northern Peoples)

This paper aims to present a text of the Northern Dialect of Uilta (formerly called Oroch) spoken in the northeastern part of Sakhalin Island. The text was provided by Ms. Irina Fedjaeva (1940-) in village Val (Sakhalin oblast, Russia) in November 24th, 2010. She tried retelling a short story narrated by her mother, the late Ms. Olga Semenova.

The story was about ogre called *dəpčigiri* in Uilta. In this story a man encountered an ogre on a trip to hunting with his child. The ogre appeared from bonfire in their camp at night. It warned the man not to speak anything in the next morning and predicted that if he did it, his child would die. The next morning the man thought that he saw the ogre just in dream, and he did not care about the warning. Then he spoke with his child and after going back home, with his wife as well. After a while his child suddenly fell ill and died at last. It is believed that the ogre took the child away, because the father disregarded his warning.

(やまだ・よしこ yamadayos5@gmail.com)